中村俊定文庫
文庫 18
50
1

寛山集

文

宮城県図書館蔵

中村俊定文庫

俊定蔵

蕉山集巻第五　夏部

更衣

きさらぎ　やよひ　さつき　ふみ　ふみ　ふみ

遅桜

ちるとてはうつもや昔の衣うへ
散わくらばやこけのうらうへ
夏きては一ぢきうるる衣
まことなりやとせはの衣うへ

何とそ人をなき跡
まとゝ葬とゝ(みそうる)白童
落きたよ方金とんと衣り包
まとゝ為とゝそ(きりつ)ふの子衣
ぬきてこまれいまとゝ墓のまとゝ
衣人(ぬ)おるる義やちとゝ
まれとゝ(ぬ)右綿 打り衣り包
唐衣やそのゆ(き)ゝ衣よ(ち)ゝ

少僧都長厳坊 知忠
法印権大僧都寛尊 政頼
行朝臣 宗保
増位蔵人 為之
宮内少輔 文賢
摂津国家人 光昌

行わとゝ花右きて子ゝ
者乃別なけ(ぬ)ゝ(き)ゝ衣
まとゝ大楊布のゝ人
花見(み)氣わりとゝ衣り包
むの袖とゝなるとゝ衣人
依保姫の妹乃とゝ お友女郎
宝宮なる女とゝけさいからの
上りていけく山そ山ゝ

長尾法橋 不存
足立右馬 元信
名和 人仲
大夜叉津勘兵衛 内貞
吳信法 威仁
宝寺宮家 宗仁
仁戸信 為平
聖法寺 玄秋

花見わつき涼乃よや夜ん衣人　尾州越蓮亭 会縄

我めのきりきるゝ衣へかしかん　紀州住 一芳

春と暮とはさみ合せる藤胡春　同

みなもやなきまはりの衣人　西伯

姥初くひそよつ子の絶や花ん　良滋

世をせきね相撲をとるや衣人　長説

くさおく雪をく干すむ絶　同

杜丹

主読せは只杜丹花の盛りかな

獅子孫もせゝや杜丹咲ちる所

名のみおもきけ月くの花ち䕃

庭人の留守をも見るかな見る所

みくさくさりといふくやろう華

御花見へは今まいりろや花の華

杜丹花よ移むる胡蝶もまた夜たり　成

猫ぢるけ牡丹あうつる日の嵐
ちと咲花は嵐うつる草
ちくみはまろ文殊の智恵の紫
い音ぞれ志ひ花ひろ牡丹
花の王まりうは塔ひとり
獅子み牡丹そ和の王や花の
八俗よ胡蝶をまはせこれの王

一安 俗名作者未詳 俗況 如雪

堂へまろく盛牡丹を

花の王や舞く雪を十せん

牛塘 真宣

葵花ぬ葵ぬ葵ぬ沸せいら花の王

夜 如夜

雨の与て踏い子淡ら花の王

俗名景紫 時之

九重み垣屋いさんそ多の王

不 秀雨

長安富み和ろ牡丹花の王

塔列山漢 吹白

葵い又花の王ぬ似ろ牡丹ろ和

秀玲 俗名 信有

志ろ咲れ花ぬ獅子に牡丹

京俗名 元祝

法不ろ成牡丹や富ぞそろ

まろ

花ゝをゝくふから志てゆかんと　儀俊
摘の月ゝ之人ゝ牡丹乃家ゝ　増田長之　宣沢
花寺ゝ見きわ志ゝ志ゝ　備前市ゝ　一宣
ゆ志ゝ志ゝて秀は皆のかゝ　大坂　久義
世ゝ乃ゝ信やゝゝ　和州　武
世ゝ者ゝ之ゝ蝶や秋を葬　大坂　保友
ゆゝゝゝ乃ゝふとゝゝゝ　紀州海草郡　加久沢
宝象ゝ之ゝ花やゝゝ者　　良保

花瓶ゝ之ゝ世海士ゝ之ゝ者　摂津　吉治
物ゝ之人ゝ花を移を志ゝ者　摂州豊島郡　斗志也
袖垣の花やわきてゝゝ者　伯耆　耕之
志ゝ之ゝ者きひてゝ志ゝ者　備前　政成
出立祭ゝ獅子や牡丹ゝ者　備前福田郡　桂正
ゝ乃蝶や夏ゝ富みゝ富貴者　　定重
花の王と志ゝ者ゝ志ゝ富ゝ者　備中　政成
夢ゝ乃ゝ人ゝ家ゝ富ゝ者　　俊沢

神農のなめ初めや富士茅　中條　貞宜

たくひなくやそれのちんは富士茅　清水　不存

花　とも云ひつまや濃茅　西谷

素意の猫の牝んふを草　信濃　路信

猫のさかりもそれいそけかな　長花

ちうくさくといへん牡丹の匂ふ　同

芍薬

花のつぼんちんぬやくのはるか

てらしとやとうもやくなく　七色　江海

芍薬や拾ひすりを花い乱の茶

掃地せよ山もやくなく　七花富

芍薬ゆいむい狭乱の花の世

花ざかりかんは雑を去ーやく

芍薬のむいかさつのうりゑ　上條

花乃ゝとや月とけてなる薬扱　平柄　京次

きりとういふ刀を面白やく　江戸　林鼎

挿もいろ〳〵六月やくさの花の書　大坂　盛屑

為業の法ハ八月ばかり後うか　重宗

さく花もいろ〳〵もろ手やえもんの陰く　堺　長次

花ゆゑふる方角角えもんの陰くや　京　和

瀬治やよ為業と生て歩

けるゆ

花の新やはんさん為業瀬治の海　一心

一八

九重やくふ一八乃花さかり

法花経の一八冥々花のひも　未得

浄土寺にて

一八の時や九品の浄　土寺　丈我

杜若

我とあゆみもきさう絵や杜若

水かゝみくやあ一ちゆ色よ花

わそこ宴花やひらさく杜若

よきゆめをみるや桂
沢ゐやみやつこかなとれ　有国
花と人今時の用ゝやかきつけ　政信
ゆふるあくゆやふ池の桂
墨き日いみるふ汗や杜若　貞吉
ふりふるとせ紫つかまつる
雨ゝや打白はあをまつる　立京
ふゝよ花ゝ咲いてれるをたてる　京保

波ゝと三河よ桂やかつよ　有国　友宣
風炉の粉ゐみ出るや垢と杜若　政信
ゝぬゝあやゝ月ほしい誰もかるる　貞吉
ひゝちまれそ花鞠やゝまつる　立京
宝の復面ーたのかなるる　京保
ひゝ男ゝれや京ゝ貞ゝ花　尾刈古碑大米　伊人
ゝゝつふい宝の上の加かよ花　朱有常　吉治
ひゝと打人やてんからかきつる　大後大津割　めや

名煙りやみのきうかよ花　播州川　玄檀
振いうのふるもきて春柱　尾州大聖院　[illegible]
さうもいろうもはそけかろう　京茶屋十郎右衛門　重信
東路やみちくさとろかろう　河州茨木住　春有
花と今宵中おれかまいろう　大坂住　梅山　桃山　保友
柱ろみるやあろうひもいつもこ
雪のしつもけろや茶うあつろう　越前ヶ[illegible]　[illegible]
大内やこかむつぐをみろとろ　[illegible]

風爐茶

風爐の炭ろろう茶瓶や壺合
大海とけこかを風爐れ茶入ル　一茶
山海して茶の湯よ
風爐仕掛茶とせいちんれつとき　播田市右衛門　宗俊
掛やろて風爐あと壺や沈香　炭　吉河

新茶付　茶切
茶切の壺乃ろりや蓮華王

三伏の夏切あやし大素つか　信甫

書て文字恵みとちると新菜　政信

多好む新菜はまいむしおとさぬ　友宣

蓼太

むしゐとさやあかく家の夏木立

蓼時や実移ち花ちる花ちる

夏ゆけくたるるや時や花ぬ花

夕日新さすい朱さやの夏木立

むつさるとまいいさらや夏木立

月の臭木ゆ下ゆるみのちや　沙山

ややり木まるに栗い新菜菜　山

おるるといへとなる木すゑ　沙山

蓼木たいふ拔もわぬ人寄ぬ　久郎　之忠

二刀やゆる俣ゆある夏木立　大坂貴之年寄　助右衛門

金魚とる地同異の蓼木ちち　伊勢忍山若田ちち　主貞

ゆさきいなちちよ花ちいたん　李吟

大森となるふもとの木のこけ紅　右兵衛督　保友

春色ふかく春やちるらん　宰相

人丸の影やまろ殿の御ぶ　内大臣

なやせをあと大原木のこすり　前右兵衛督　政業

亜槐も前の春をふる新樹ふる　前参議　宗尹

春をいへて森もこ木に春の雨　参議　為昌

楽京の四人の梅の夜木うち　京兆　三秋

ふるあり御の木の下陰やとくろ山　播磨伊勢守　重紀

針の木に春やり形乃書く　京　則康

かくき沈みしやく春ふい春雨　中納言　元信

云に恋も志けき一順抜　柳　利政

木の下に陰いくう梨の前り雨　菜屋基[illegible]　方成

ふ東ハおぶふ法とる前り雨　尾州熱田住　吉久

鶏冠井良徳新竜の舎

定家ふ[illegible]ふ枫ふ前り雨　長親

百人一首講尺の座ふて

南座

雲の葉は走るやうに空家つる　丸

さらさらあはせ浴衣日まし　同

吉山桃

咲ちらぬ木かくれやさ吉山桃　卜僑

むせくめとはなくらべ吉山桃　仁戸行　友重

かさねてや花ちる同とめ吉山桃　諸谷　月明

流籍つれとみるめそ吉山撥　長丸

餘花

卯月あを心の花やさきけり

撫子は余花やさらん家撫　花山家[illegible]　保友

走撫は夜の月やさらさら　紀撫中[illegible]　西義

風ちりを花とちらぬ月かな　聖徳[illegible]　雲義

花ゆゑ卯月やさらの月　奥義

奥義や夏は目てんはさらむ　定之

木蓮花

香をとゝ海をや色乃末蓮哉　二条宮内大輔　梅風

湯の山にて

ちるく谷めぐりて見るや末蓮花　大坂　保友

雑漢樹まつゝて咲や末蓮哉　京　行

さらかりて冴ぬ月の末蓮哉　はまみつ　祐氏

花一とゝ名をそうるく末蓮哉　丹別邸　お加

連歌あり持やゝ新式とくまん末蓮哉　越前国[illegible]村[illegible]　勝吉

匂ひをやかく花のあるん末蓮哉　大坂住　京成

菱花

ちりかけ〳〵ますゐ池の菱花哉　青面　友宣

さいそしと光そうふなき菱花　大夜　正沢

若楓

色変とやはあちりわるとわ楓

海乃風をとるや卯月のかの楓

吹風ゆゑ[illegible]やうやくを若楓　勝紙

秋のをを先んうけとるい蛭哉　未妙

なんもりや小金の里のかえ　飯沼かつ乗
恋しきやや代れ集乃わり楓　名越信　角
青葉といちるみてるうえて　出西市兵衛　一宣
於田川や澄中みんく山の水　東深之介　元信

卯花

盛つきみく摸るとて千とみ木瓜

武寺ぬて

卯花とおとしるるや三貝豆

卯花の時いらうさひやほの
ちるむしやみ世寛卯花
卯花の猛丹ちふや友木立
卯乃むれ垣も鎧ふ縄同
恵なし咲やうれ川の穴つ
甲山てみる卯の花や物かう　仁茂平素　西笑

元木れ白

卯月きつ季い先夏のてい　一明

雪打の卯花垣のよこれ行　赤松
ちるたの卯花垣やゆふ[illegible]　南都法花寺　宗之
月と知雪や卯花富士塔り　同
ぬき枝ハ太敷もちの川ら木　名越左近将監　伊人
箱根山や卯の花ぬと[illegible]　[illegible]　真好
卯花やあもかんもうの色　[illegible]　玄樹
なるおとは明ハちるふて雪と成　中井　永吉
花ぬ面ハかりら箱根卯木ゆ　大坂住大江[illegible]　也夫

御仏も卯花小袖の生ぬ[illegible]　大坂平野[illegible]　尚志
数ぬまふいさうち出く雪駕　摂津住　宗利
花も去ぬ一波の敷川ら木
ぬ[illegible]枝ぬ[illegible]ハ卯ぬ[illegible]ぬ
富士ぬの河ぬ[illegible]ぬ雪ぬ山卯木　定之
卯の花ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ
灌仏ぬ花を[illegible]
いくいけやうし卯ぬ花の雪仏　[illegible]

月うけやゆひ付てをく卯木　同

卯の花いろうかの夏九月ら　同

中みわくいろみ白ぬの卯木　同

卯花花ハ郭はうきき九ら　同

雪月花一度ゆきとろ卯木　同

蓼

物の音のいとゝ蓼九ゝ

庵ゆ花指腸ゝいあふ

花ゆあゝきゝゆや初の花蓼　芳

神山ハ神の鉢ゝ洗蓼　吾紀

さしとゝきゆみゝゆ初ゝ蓼　元時

茶

散蓮をとり九ゝ茶筅茶　堺住藤屋　あ之

猫柳やゝく西ゝ乳御散蓮　奥石市左　友之

元人のあれ山ゆゝ乳ゝ茶　信国　政信

賀茂ハ真茶をゝやをゝ茶　同

今宮八御振へさうなまつり哉　同

数珠やもろの弟をさ　浮屠　吉色

三瓔の弟条ふとてあり　尾州侍従　孤雲

鍋炭や眉毛はくまの弟条　吉原　令市

山陰のひれとそこいや池つさ　元時

穂花

花ちるは面ハきまくちきるまり哉　紀州小姓　政玉

むとせあ名川きけつれるまり哉　鷲頭庵　笑雄

萩花を守護せるまり哉　太我

郭公

なうもうそ只をとをる名ふかな

伊達ハかそんの山ほとゝぎす

卯月来く弟ハ水や河

にてを水鶏よ名人かとをきを

名乗せは氏やちをる郭公

竹の子の釈まさりける郭公
きとりみ都のやけこ子釈
うの宮みの鳴くい孫ちとの鶯
歌ちきとるるに立つ山郭公
郭公山を巡る巌を高孫郭
奥山みとんせいまさのかたまた
一こえいとやいもん郭公
鈴耳みきうせん地のかたまず

名字をそへよ時分
けよとハ山ちりかるる子釈
ちまの虹ある虹郭公
名のれとも忘ぬの耳の時分
家狩ハ何のかるそかたまた
涅槃像ちれるみをちやる釈
子釈ちるハよ一京をちりみ
皆乃代かしくはるあけ郭公

[illegible]
[illegible]
[illegible]
地獄耳み[illegible]
天乃戸や夜まふかくく子知
耳のひくあ川きの実や郭公
田家うたふ[illegible]
[illegible]

みちのくハ下ゑ[illegible]
約人とはん初みちとや時雨
[illegible]十二夜ハちけ時雨
[illegible]おのの絵み[illegible]子知
[illegible]の郭公
[illegible]
[illegible]
[illegible]

とゝ[illegible]ゆ[illegible]くきうむる紙

牡鶴松とふ素をみく

名あ毛洲そちゝて松れ木洲多

ちゝといふ文字い毛の字う子紙

ゆ[illegible]ハ一生一句うかゝきた

多と用一宗方ほそ[illegible]

本多ちけよれ文三ふく郭云

[illegible]毛水鶴洲ふかとたゝき郭云

耳のもゝて明牧ゆ男ハ子紙

出合かと毛よ郭山ゆ[illegible]

ちけやちを毛あやさめゝ毛洲多

なゝて名やゝそ毛山の郭云

卯花ゆ明やゝ郭郭云

夏耳ゆ一ゝ毛ふいゝ毛洲多

三公よハて一郭れゝた

毛毛ハゝて毛やゝ明郭云

當社弥そりの子ほとゝぎす
梅の面ゆまつをいせよ郭公
風風の却ハ荒ちり行き次
子紙月の出ちくハ朔寝ル
なてきんを伯と出へき山ほゝ
始ゆう行ときれもの却もル
実さやくのありやま郭公
行行もかくやかとゝぎす

ぶんさんも拍をいふとそよ郭公
夏やひとり沙法斗郭公
ひさひい五言ひ行ったかとゝぎす
月代のまとやゆ茶子紙
當社者の数とりの行きん
大ゆも大耳ハせ郭公
そゆ初しはけさものちよ時雨
ゆハ行の却むる郭公

一こゝいるうけの羅漢郭公　家雄
為をそよ人市も立ぬ名　良和
ゆやいふうちの立耳子紀
小聖て山者やたゝぬ時名
地獄よそ者やそ山かなぶん

初者や唯我獨吟かなん　利政
爰聖ゆう者やいくそく郭公　良和

乗物所よそ

乗物く名ふふいたゆよ時名　長浪石
面ゆ行や一心不乱かなん　あ明
そりつなの夜ゆを波郭公　同
有的のつまくおちるきや迷子紀　紫雲亡師長無年　家雄
初者さん俗四つ岩七郭公　同

けさのをロあみけさの郭公　姫路侍従酒井忠政

郭公きくやあやめをいへ童子　同　春長　笑月

あま人の釣の森はかすみ　未得

をぢはうちのしたのみ紙　信留　政信

村雨のふきはらふ波の浦

子規をきいて耳のあるかぎり　同

夕枕のひちやうの郭公　尾州侍従藩　毎延

なき不動なるみけよ時雨　薩州侍従藩　吉祥

一せいの夜ものいわぬ郭公　蔦谷　貞利

清水寺にて

時鳥山彦ひゝをかすかに　同

然るせそをまつ書時雨　加茂　紀州大納言藩　定時

奥耳をきくや深山の郭公

さやかにくはゝそよめく時雨　勝祐

常夏子紙の明とて人の

夕夏来つ書るふ形て

ちりけきハ

なるね殿ときこゑをうきおしん　同　武平屋高　幸ハ

天ゑ帝てゝ地人をさせよ郭云

いふ冨くなきあしせやや時　同　大坂住家　定房

一きいいたちやしのてちろ郭云　井上　正知

ゑひ都やかそんけ易子知

親なるちちを人を鳴郭云　未表たつ　吉治

出るゆるなるけよ時与　大坂住　丁慶

爰ゑ冨こゑ安全言そかとれハ　江戸住筒井平三郎　宣和

夜帝せよそて森ゝの子知　江戸　康耳

ゆるやそきみうけち郭云　宣云

ゆるとかくゑハるその時の与　同　庁相住高　武保

本尊八十二弟や時与

命さゑそ佐秋の中山時与　同

口まゑみるくハかくきんをは　中川吉右衛門　重徳

ちゝくゝと鳴や空井の子知　名古屋　正左

郭公きくやいらつの木の　勝之
おもきまれいとそひはちけ時鳥　[illegible] 言沢

一郭公なくけさの郭公　作左衛門
給けを明やかたまきの舎　[illegible] 後凡
きこひちけたちぬ山くゝ子規　大坂 松高
鶯くゝ[illegible]とゝ字そ時鳥　[illegible] 重昌

[illegible]寺にて
法の声つかたくきゝん移ち場　中[illegible] 永吉

きりくやこうちり鳴ぬ子規　[illegible] 定利
郭公や一声なハきゝんかたく　[illegible] 如雅
富士に習もとゝきゝの郭公　丹川[illegible]山 安知
郭公やをとゝとゝて山郭公　大坂[illegible] 助吉
廻りくりたうけ鳴かすす　同
一声やせ二声三声とゝん　芝辰
宇治にて
郭公なるの子物声歩又左衛門　同

酩酊あるく岡右衛門や延年式　同

討ぬ北奥八ふまちを北子紙　同

寺ゐ今イ夏ん天ほとゝきす　勢州伊賀水　亜沢

短歌もあくゑむくまつ屋郭公　感庵

蛍やゝ〻いとりあいかゝまれ　尾州一宗　友我

彩を訪ゝ秋板者の附れ者　大阪　定房

鳴も不如物雲ふ立て附者

琵琶如碧ゝ者夢たまや子紙　西乙

例るゝ花〻しめへく

笑し侍ゝ得ゝれて

掛よかんな命ふちゝきゝ子紙　同　大坂花山　保友

こゝあやの紙や樓かゝきゝて

ゝ保たゝ名れゝ思意の郭公　同　桑名松信　一治

あぬ北日字上下略て郭公

彩を松の山卯もゝ的子紙　同　大坂住　如貞

子紙ゝしく木玉や弦ゝきゝ

卯の花をせめなりてちるけ時　盛
ちけ夏は花きてまれそ子紀　水戸藩士　良忠
高き波は破き太鼓のほとそ　士分大家　正重
さりもるすりやかとなる補　金田　弱
いてさるっ却ときっちる郭公　江戸中期大名　文信
郭公ゆいろはをする法もか　伊勢藩士　重成
るるゆゆるけやいろはは時雨　中期　正勝
声のあやしかるれ教を子規　貞宣

人待ぬ夜は時雨と云ぞ世
郭公きく渡り花のちるか　大阪　乃保
夫母はしりややみれは時雨　正知
田舎てやなとはとる郭公　松平伊勢守藩士　海吉
ホ学けるは南を面れ教の子紀　蔵谷　貞好
大佛しなて
帰てと人家は耳塩かなる　松田勘兵衛　寄業
まつらはるを美みもや時ぬ子紀　雪重

山くちき墨て祝いうや時雨
万歳みきさん湯の山新五　　大阪天満　友之

宮治まて

名のりそうらう曲されし紀
よき新うといへやはの時雨　　大阪長谷川係方　信周
夏を訪世者新やれむし紀　　大阪住　俊永
一ふやや夏みとんうら新五　　同西住薬方　元貞
うち新て志けき松山かとれ　　同　長尾
　　伊予高浜方　信元

ひくとするふや泣尼新五　　大阪　久翁
かそんけよちやう母あうこ紀　　同
新五しやの又やふ人ちら　　同
実寺やなせふ傍あふ時の雨　　博多住吉方　あ之
一ふあけよ箱根山かときて　　大阪松屋方　孝祐
おるかけよ計とふ川木み時雨　　同西芝宝寺係七　一歩
にはう人やふ井みるけや紀　　中川表方　竜治
掛みきけと新せよかとれ

太とうの都やはてきてきの　平均法師　良沢
郭公鳴くもゆるや氣短夜　三上　昌休
きくやいふうわさ計の子規　出之
孫そーせも蓬の宿よ郭公　李流
海山見山秋時やかすみ　あ[illegible]
いかりおきまくもたおさやう衣　西伯
都の農やあ菜の花乃郭公　同
鶯乃たりやうひなもはなみ子規　玉和

お家るそをちくへきたる郭公　相　しえ子
ゆ山おかるやかきき袋　江戸　三也
なそんけさんむるやはなの　同
けらるくきゆ時ぬ鶯　良漁
お前八ふそうや郭公　敦賀　永吉
強金やあんうさにるく子規　博徒　二五
孫うつよ風をわたる蛙　良和
夏夜てゆんやきの松風　博多川　玄穂

きそへ髪のもゆけむてゝ　二條宰相　友信
たゝやりちくみ川わそよ　きゝて　江戸坂本の住人　宗和
高きるきいふ金の山のたき　常陸国太田　英國
一せひの二ゝ月をあけよ時雨　あ田山長　心長
天ゝ一ゝ月をとゝりや郭公　筑前ゝ長　清之
郭公のたそんや清乃浦波　摂津大坂　岱心
面影ゝ月は山くるけ子知　尾州大坂　正重
そんなたきゝれ笠の郭公

ゝつませく鳴蛙や鞠の背　尾州　友我
ゝ笠きくハ果蛙ちゝゝよ時雨　平戸人　易延
本尊ゝく耳のあちんもち　同
ゝゝやゝひり丹ゝるけそく志ゝ雨　京都大坂　元時
子ゝ月ゝ彷彿ときゝのゝ　尾州大坂　滅堀
もゝやゝけゝゝゝゝゝゝいゝて雨　名越長崎　不存
群ゝゝや諫鼓苔むゝ時の雨　播磨　勝明
文字ゝ月ゝのわゝゝ規ゝ鳴雨　江戸　林森

初入るて志賀の郭公　　宇幸四主人　金吾

奥州松島の採寄して

和尚御所望

深海（リンガイ）の唱の一こゑかときん　　紫雲老仏行奏

夏はかこ志きみ時知るを　　江戸住山城　政也

主日に安てめこや郭公　　長親

卯花と世間をとるけ〻時雨　　同

志やの文ハそこさ入つりて時雨　　同

子規山を遠初のこゑも哉　　同

鶯は志く〻やもゝん秋を知ん　　同

夜の口鉄とらぬさきこゑ時雨　　同

介之推りの入こゑかぬかとまく　　同

山夏ハ下ゑの茶っほそ哉　　同

匂をきて そゑけと思ふ八公時雨　　同

梦の中北王をやゑ丹の子規　　同

却やの四ふとひきて人よ河の音　　同
宇治川そせん船をみ武者部云　　同
子規れそれそる雄鶏の声　　同
月み却せ一い空卵色子規　　同
京みそのかある山ほときそ　　同
位吉のきしほるまれ子規　　同
えるぬい見なみの夜郭公　　同
対きる鐘をや見けん付る　　同

取くきけ耳のある月子規　　同
突てやみ名者なたん　　同
ゑ月ある時こ対ほ北　　同
なくとそ一えそ月人の子規　　同
行志きみ志川とる化ち武　　同
郭公時こんするあり　　同
子規却ひるかを月夜式　　同
突さきみ耳の印月そ子規　　同

塞王をきうへ城ゝ門書　同
鶏にやとり坂井のほとき　同
多能なる人の奥方ゝ
万地乃松ゝ名とりて子親　同
時鳥ほとゝぎすのて紙とり　同
およ今聖代乃やま郭云　同
蛍ちりて都せゝ北て門書　同
郭公とへしゝゝ金乃ゝ　同

先とひくて不如帰ほとゝぎす親　同
安たなや法乃の奥儀子親　同
東寺ゝゝ
秘密ほとゝぎす松や吉言門書　同
背ほとゝぎす桂とれて子親　同
郭云ゝゝん乃ふほとゝぎす国　同
ほと入やうゝと孫変郭云　同
京ゝゝ人の数ほけ子親　同

みとをもろ孔日ハ去ら子規　同
群ハと孔今　みくやうるとき　永　同
みせくちく　後いたひ　同
いきあせちるけやくいなと　郭云　同
月ハ俳徒　ゲ　ゲ　と　郭　云　同
三却ハ　郭　云　同
耳ふて曲兎をくや　同　同
一却と　郭　同

情むきハ　郭　云　同
可ちて　郭　云　同
ちうこせやん　郭　同
又月害ましや耳ふ　郭　云　同
ゆ　郭　云　同
耳ふみくよ　同　同
本乃美ちて　郭　同
ゆ　郭　同

淫あくまでもあひまうしやなれば　同
さてさてうらめしうらめしの　同
子規無言たゞうつむき　同
空耳のひとりとすやゝ規　同
もとゝぎすそさくとも蛍　同
哀感の流れふんぬゝ規　同

蛍

酔ふてせくさゝみ孔明蛍火
太平を祝ひ元明とやらん

実布孫川のうるゝ火や　蛍
窓乃火の焼蛍草みとゝ蛍
色みちる蛍い浪の花火哉
芦乃屋の火牛かとみまい蛍
ちらちら火の面まゝ蛍
蛍火い川乃流中の夜ゝ
水と火の相性をよき蛍
みゝ孫と夜光の玉い蛍

螢火をとゝ一尾となして朝あ
猿ゐけぬ螢の尾にあるを
螢に火なしいかをさんあの足
火松に(に)とんゆるい字法の螢
螢火をむものまへにむしろ
くつを火も螢をえ源氏あ
川つゝみ出ゝれ光火い螢の
ものあり廣嫌う玉の光螢

我とわつる火うとん入螢うあ
水あ繪をくやき身の光螢
火袋い紙うつゝみ螢
つ者の中あむとまる紙の螢
螢火ハたりやを猿ゐくく火
螢火のくうおぢめかる胡蝶
まゐのいる庭ハ猿沢の螢
我と身をやくさいもるき螢

さゝ波はたゝぬ日ぞなき蛍や昼
わらとゝかとなさかしの蛍
蛍火いせしるべ乃あるん
ゝそのかゝる蛍ゝのやいとゝ
蛍とゝ池のぬちゝ火なる
川ゝ水火流しゝとする蛍
蛍火を焚や鞘　鞍かまの前
柳はゝの蛍も奇のひつゝ

なゝいかゝゝ蛍ハ草の元ゝ
蛍火のゝとゝかゝいゝ牧
火とゝるゝ食ゝはゝ家ゝ花蛍
白波のゝとゝはゝ火てゝの蛍
我とわゝ月をひゝかゝて蛍
もいゝゝ蛍ハ庭ゝいけゝ
夕ゝはゝるゝして蛍の火はゝ
蛍火ゝなゝく林や火ゝ

波のちはやぶる神代にも聞かぬ
螢火の我と我庭にとびかはす
火乃鳥とまらぬ螢も無かりけ
りもみぢもいわぬ螢やかぐや姫
水なかぬ火花さかする螢哉
二まきの弁ハ螢の火もえ哉
火花ちらすもてゆかぬ螢や文軍
鹿の火てのあみとる螢哉

夏草に蛍や螢の火ゆ玉
螢火いまの花ぶ乃あり哉
消てなりやゆくゆく螢火ひろの
濃州の内みとまりて
火をとるや螢乃中を不和の冥
ゆくゆく螢乃花火とあらい螢哉
文字みゑ鹿を以の螢哉
石山い螢のけもさいひ哉

忘れ草いふの中なる火の蛍　水
餓鬼なるて水を火とみる蛍　水
ちらとみる蛍ハ雪のうつる
蛍火のきをすさまじや五月やを
蛍売人や火せをて水せを　奥西市右衛門　友三
坪の内入や蛍もひちやうろう
主人の母乃逝去ふ
蛍なふ消ゝを何とせん妹うる　同

蛍火や宇治の橋姫へよしなし　武州宇都宮　水也
力をもやを蛍やうんを姫ふ松　大坂住　海風
宇治橋の仇ふ火とを蛍ふ　紀州和歌浦　定之
日を入くひうて蛍ハ蛍ふ　尾州大垣城下　正泰
水の月と蛍やけうさ庵と思　大坂住　宗清
ちをもいくらう蛍ハ火いけふ　江戸住　友二
出なふ庵のひけしき蛍ふ
でも上あいてさう蛍やを好を　良保

火の二川みなかみや炭蛍七字　　尾張国熱田宮　友勝

水みきたるく火をなる神や蛍　　伊勢国桑名郡　良和

川ちかやの秋清義は火の乱蛍　　伊勢国桑名郡　めい心

稲川てる芝水い蛍のひり者乱

ゑむ水みこ川ゑ蛍い元かゑ乱　　尾張国熱田宮　良和

小車をまもる蛍ちゑ乱　　大坂住　友陽

えりあゑ蛍や庵の穴ゑ　　玄う

星みたけとひゑるゑや光物　　盛庸

重和

花蛍ちゑ火蛍の火　　大坂ノ　正知

人々さんを蛍い光ゑ乱　　大和郡山藩士　掛也

三蛍をもね　　南都興福寺　正傳

いなゑ山の蛍いきつのまの火　　江戸　圭行

文月は笑とをく秋学ゑ蛍　　尾張国名古屋　友宣

貫義あくいあひ火をゑ乱　　一入

花蛍ちゑ火をゑ乱　　江戸浅草蔵前　英儇

ゑ法師田い蛍み射の火ち乱　　時

四谷　　西成

くるくると回る蛍や火の車　紀州堺大坂三郎　良秀

雨の降る出る蛍やさらさら庵　尾州　貞沢

蛍火を月さまさらさらと　加賀　加友

月をとりやうして蛍いとんき周防　備前姫路　長牛

月の海よりおさしくみる蛍　備前姫路　三重

さらり計をあるる蛍やをそらから　江戸　之与

浪の花をもとる蛍うか　定重

孤火と人見るとて蛍の蛍　下仏

そそくさと出るハ行のすりひの蛍　大坂林助左衛門　久仏

走るとり水出る蛍や焼鈍焚　大坂住吉郡　定房

火をとるハ中やあ〳〵花蛍　中丹　忠幸

見るやくふいの武蔵野よ花蛍　名張堺屋文左衛門　重正

はせ舟や蛍の庵よりきの　播州姫路本住植三郎　好

紙屋てもとるぬ火てちき蛍　大坂住平兵衛　助高

文字いかるへ火をいくくハ蛍　大坂北浜太郎　孝安

花蛍照車の玉の車百合

苗みてやく秀孔蛍哉　同

川社ちこおる蛍い迷火哉　貞恢（大坂本町医師）

稲穂ゑ元孔蛍や星月夜　安通（大坂堺筋材木屋）

水ゑ川ゑ新い蛍のひとく哉　秋沢（東尾谷住人）

岩小孔蛍いこんゑやい火哉　海一

小車ゑ蛍の火をやそりけり　正重（紀州）

月入く板を蛍乃日まちゑ　一井（東矢田二十郎）

宮居と塔田てみる蛍火や離断　昌香

火を出てやさん宮居の蛍哉　大坂尼崎久左衛門　宗孝

見ゑ人のめくる火乃出る蛍哉　岡山藩士　孝庸

月と火と孔ゑんも落き蛍哉　淡州国分寺住人　正八

月ちや伊とちくき蛍哉　大坂住　満成

夕立ゑひくるい蛍小庵哉　越山住　安邦

蛍火い書ゑを知くまんのやを　京人僧　寸川

学文の意ゑひいつかくる哉　大坂住平野　素益

子ゑそれを火まやくさんまいや孔蛍　大坂堀山多吉郎　保友

元をそてあと　伊勢武者の花螢　天王寺家　英隆

関の夜乃錦みまもる蛍かな　備前姫路住　重助

れの川の蒲の蛍は火も共　合　西在

とちを花ゆひたる蛍の火かな　伊勢　子舟

有明やはきもくまやと蛍の火　能登七尾住　芳文

秋夫のわの切るは花蛍　越前福井藩　親久

夜の蛍を題として

はなはだ一そく花のほうろかな　播州住　真米重紀

てん火をとらふやうと事とふ蛍　元釈

秩父山ふかふ蛍火やうな灯籠　桃山家老　保友

水は蛍変もはのひかりへ　筑前黒崎住　俊雄

秋ハ蛍蝉の笛をもるかつ肥　日向延岡藩　時之

奥州にて

蓄し川やひくゝゝと花蛍　同

蛍火の花筏とるをいをき　備州岡山藩　改次

伊ちもやさをやひつ社は花蛍　西伯

二川つまを光ー蛍をひらく式　伊勢富田　秋心

をとをとみきい蛍いひはうれ　紀玉

文殊ちりの知恩院光や光蛍　尚江戸　重佳

掬光と伊をん田中の蛍ゆ　大阪伊勢村ノ内　孔次

水のゆるる川ゆ光ゆる蛍の郭　大阪住　波水

入相乃ゆ光ゆ蛍ゆ光ゆ　京住　三秋

夏とゆへを歌さへ蛍のひてゆ　山森ノ三ノ　幸忠

地獄ゆを国をひらゆる蛍式　京住　雪似

夜ふりを式光いもの川ゆ蛍　備前ノ国山　重房

蛍光も消ぬを水のを草式　江戸ノ三ノ　梅盛

みりき寄江庵ゆくや蛍光　紀州　秋意

涼を歌ゆ歌ゆ式ゆ蛍式　大阪草間ノ内ノ家　宗黒

蛍をひきやをりいの能の湾　京中川ノ内　重治

光をゆを蛍の庵や光きを式　摂津ノ内　易廻

光年長の竹ゆ蛍ゆ光の八　竜宗

電光の石光を岩ゆ光蛍　成利

江戸道二河と云て　四十四

出ハさの川や二河みなとなる　鎌倉道清之

急流水ふてい花ぬるる　安房

ぬるるまくんみなとの螢　中村　重則

花螢火を流せ竹の煙りの　江戸中橋　改巴

玉しりを光みまるるく　長乾

夏出み火をたゝる見れ花螢　同

鳴りゑん田中の螢　同

執火をとゝ多ゝしみくやゝふ螢

星みて小ぬるる螢　同

非をとゝて小ぬる螢　同

とのの火くゝとゝたゝこみ螢　同

火とり出遊やゝけ庶螢　同

ひゝとゝ水鶏非ふみくや螢　同

螢火ハ殺生をとゝいさり　同

螢火や川さ浅拂て飛　同

かるるや磨の外北天史地史　同
ちらは蒲を史るはとるせる　同
蛍かとも炭史いるのまひり　同
六条河内た近あやけら
一枝百本市門絵
二条拾遺殿の作をかう
ありて
るふ事をるきい蛍の史る

あけ蛍のみそあ蛍やとかる　同
よりひ星や蛍くやよ花　同
燈明の仏のもとおとろかる　同
乃ひ数のひろい酒乃日る　同
郭沽る蛍うたけるあ史　同
百草の思焼を孔る野の蛍　同
蛍をもくる桃燈る今育孔蛍　同
ぬをへうへとなもの菖蒲ゆ花蛍　同

山寺や苔ふるとりのみち雲　同
淵い迷遠めろ紅葉やよ蛍　同
からもてきれ星とやいとん田の雲　同
明星のいくらを出ろ蛍　同
雪ゆり蛍花ハあみさの芝ル　同

蚊

蚊柱や角ちりあろう蜂家

蚊まち火ろ窓ほさと紙を煙　小草
ゆて教を蛍あろはの蚊帳
蜂のそろ角ほりてら蚊蜂
蚊乃ろ忘ハ間ゆろ走ちやろ四方　小草
蚊ま忘れ夏れりろ夜や椿
夕ゆハ配ちとを蚊ろり夏の
蚊の夢をかをなりゆ安紙帳　小草
夕ろくをれりてろハい蚊食ろ邪

四十七

ちやうりはちろう家ゝ立ものを
麻入花の蘭や前黄の陸引
うゑ毎ゝ移ゝ敷みそるゝ
そのゝやつ世ゝそ入る枕敷や
敷ゝらをひつゝ分ハ敷ゝ
子ゝを麻ゝ敷ゝ布袋の陸引
敷を火ゝ物ゝ枕香炉ゝ分
ゝゝ入ゝ敷ゝ四方ハ敷ゝ引

菊井陸奥守詳
二世吉兵衛
松尾甚七郎
掛也
一滴

敷柱をもつ餅ゝ
敷柱ハ我ゝとせてをぬちん引
敷柱をみうをゝ杵ゝ
蛙の巣ハ子とりはをぬの敷柱
敷乃敷ハ人ゝふとり人ゝ文字ハ
孫川くゝもるゝ敷ゝ
地水火風ゝ敷ゝ
敷柱や文付ゝ

国八西
吉彦
四ツ口長兵衛
則重
四ツ口吉兵衛
正次
中西市兵衛
ゝ次
尾州
不休
尾州
貞忠
尾州
貞次
紀州熊野ゝ
三永

蚊柱をたてし幾つ或や殊に多
煙なる面白かりしをえうの沼
夏は夜い血をすい蚊なれば撃
ちもの似ぬ蚊をもとめて世蚊
よりくも捨て秋の蚊帳なる
喰ひくをあるる蚊をやひらは
蚊柱や杖の方に寄り来る
蚊の餅をくい蜻蛉の夜食

信田吉行 政信
信濃守 定房
丹波守 元時
常陸盛三郎 英義
芝居子 政真
二条中納言 貞宜
大坂うめ寺 久義

丹川盛山

徐入花ちる蚊柱や家さろ
三つ蚊の中にある蚊柱生婚
そん面たる東るくいつ蚊
夏乃来は蚊いちをもつ四国
蚊帳出をみさき蚊の傷ちんを
天道は蚊ふくらをみちに
ゆをへていられ蚊は本性
ちの蚊を拭ふ朝日ちの

伊丹晋作 名紀
筑後守 盛休
平井八郎 易延
山城国行村 三陸
薩摩 元辰
波多 重吉
長崎 吾盛

法華経のいとをきうの形象　長親九

不殺生戒を

乃至数とをもろさく殺を我心　九

はるうの日面ハ我方七郎ハ　同

一度三井寺あくてハ

乃きに伝巳の法物形とも

と宗一事を思ひ出く

たなりハ形いとをとちたふ　同

あるきハ世の後ハ実るく

て余法以ふ事を宗祇の

やとしふ事ハれもそれ

と古事ハ用ひ侍る

灌仏

ムさん仏いハ衆生をとをふ　法衆法之ア　不存

感ふいを国る仏の生場ハ　ムハ　今市

三界のたるを卯月ハ日ハ　長九九

岩梨

松のさきとなる梨をそや脇の道　信濃　政信

菊

菊や本はと閑の翌月夜　斎藤宗良　政雄

冬とはなるや三ゆりは草　尾州大宗寺　宗良　守業

夜菊の冥五月咲いた九月哉　播州姫路住　之道

夏草は渕を隔てる月哉

庵ゆゑ

夜菊の香を

長庵の上ゆゑ

菊やよろ門の花乃中むら　円　若発

昭和十六年四月写
伊藤為之助氏本

不西女